

URA の湯遍路旅日記 2011

——中国・タイに行く——

浦 達 雄

I. はじめに

本報告では、2011年に体験した海外の温泉旅について、旅日記風に紹介したいと思う。中国では北京市内の温泉施設・小湯山温泉の共同湯での入浴体験、タイでは、北部のサンカンペーン温泉において、温泉施設での聞き取り調査をしたので、これらの情報をもとに執筆をしたいと思う。

II. 春節後の北京行き（2011年2月17日～21日）

1. エクスぺディアの利用

2011年2月17日から21日まで北京へ出かけた。休養の予定だが、色々あった。ホテル（北京宝辰飯店）は4泊（エクスぺディア利用）で19,780円（食事なし）。つまり1泊は4,945円と安い。飛行機はNH（ANA）のマイレージ2万点の利用し、オイル追加などは1万円程度だった。ちなみに、エクスぺディアは米国のネットエージェントで、日本語のHPがある。

2. 2011年2月17日（木）：移動、瑠璃廠

関空10時発のNH159便は、現地時間12時30分頃、予定通りに北京首都空港へ着いた。空港快速（鉄道）25元、地下鉄2元を乗り継いで、14時過ぎには、いつもの北京宝辰飯店にチェックイン。部屋は648で、広さはまあまあ。この広さは確か2度目だと思う。両替は1万円が759.09円。2010年12月よりレートが悪い。地下鉄などで大きなスーツケースを持っているのは学生レベルで、考えたら、みっともないかも…。金持ちは自家用車で空港を行き来するらしい。

早速、朋友の王師傳にホテルの部屋から電話。ついでに大阪観光大学から北京へ留学している日本人留学生・Hさんにも…。師傳（シーフ）とは、その道の専門家のことで、王師傳の本名は王天林、山西省太原出身の書道家兼印鑑彫師である。私とは足掛け10年間の付き合いがある。

留学生のHさんは、2010年9月から2011年7月まで北京の語学学校へ留学しており、私は、2010年12月、観光学実習ⅣAで北京ツアーを実施したが、その際、同行した男子中国人学生が彼女の中国の携帯電話番号を知っており、12月に彼らと一緒に北京で食事をしたことがある。

15時からいつもの楊梅竹斜街の店で、散髪&按摩。散髪と髪染は1時間、按摩は90分だ。これで100元。夕飯はいつもの瑠璃廠の民俗酒楼。王師傳・Hさん・私の3人で223元だった。Hさんは北京語を勉強しており、通訳をしてもらった。

帰路、Hさんと和平門まで歩いたところ、無情にも地下鉄の入口が目の前で閉鎖。あとで聞いた話だが、2月17日は「正月十五」とのこと。つまり、春節（旧正月）の15日目で、最後のイベントの日となる。

和平門から前門まで歩いたが、前門の地下鉄駅も閉鎖中で、結局、地下鉄の天安門東駅まで歩いた。30分程度だと思う。天安門広場や前門は人が多くて、さらに爆竹が本当にうるさかった。しかし、食後の散歩には好都合だった。

3. 2011年2月18日（金）：中国旅游書店、王府井、紅橋市場

午前中は中国旅游書店へ。温泉関係の本を買った。297元。いつものように1割引きだった。帰路、北京国際飯店の旧知のコンシエルジュリー・張氏と話をした。日本語がべらべらなので、大助かりだ。2010年12月に中国人学生の通訳で購入した携帯電話の具合をみてもらったが、やはり使えないままで、解決策は無し。ちなみに、携帯電話は紅橋市場1階で購入した。機器はノキアで、本体は150元、電話番号は20元だった。

張氏から今夜泊まるならと言われ、ちなみに宿泊費の交渉をしてもらったら、400元となった。直前だとかなり安い。普段は安くても600元程度。しかし、私は宝辰飯店で4泊なので、無理…。「次回からは予約してあげる」と言われたので、彼の携帯電話番号を覚えてもらった。

12時から14時まで部屋で待機したが、日本人留学生・Hさんが約束の時間に来ないので、彼女に電話をしたところ通話音がなるだけ…。その後、15時に彼女から電話があって、風邪とのこと。やっぱり。その時、私はとっくに王府井の街中にいた。

王府井でいつもの辞書を探したが、無し。「中日大辞典」だが、外交書店や王府井書店の2カ所で見つけたが無かった。残念。しかし、「日中大辞典」は多い。

続いて、紅橋市場へ。偽物グッズである財布の価格チェックをしたが、10元はなかった。12月はたくさんあったのに、どうしたことかいな。夕飯はホテルが入居するビルの1階にある美国加州牛肉面大王で牛肉麺を食べた。20元と高い。その後、中国専用の携帯電話をいじったら、奇跡的に電話機能が復活した。早速、充電をした。

4. 2011年2月19日（土）：紅橋市場、瑠璃廠、前門

9時30分、北京滞在中の中国人留学生・周さんから中国の携帯に電話。彼女はハルビンの出身で、姉が嫁いでいる北京に来ていた。大阪で北京再会を約束した訳だが、約束が実行に移された。

しかし、到着は12時と遅い。地下鉄の北京駅のことを電話で何度も確認されたが、難しいらしい。外地人（北京以外に住む人）なので、北京の地下鉄は初めてとか…。納得。昼飯はいつもの菊水亭で一緒に日本食の食べ放題を食べた。1人は68元。学生の方で、先方のおごりとなった。まったく…。

その後、紅橋市場へ。「一卡充」（携帯電話の通話料リチャージカード）を買ってもらった。これがないと、通話が出来ないらしい。100元のものを買った。電話は5月までOKらしい。

それから偽物グッズを探索。ルイヴィトンの小さな財布は40元で、交渉の結果、15元となった。2010年12月が10元だったので、交渉を打ち切った。その後、周さんとバイバイして、16時から17時10分まで、大柵欄の近くの楊梅竹斜街の散髪屋でいつもの按摩。70元だった。

17時30分から大柵欄や前門の街を歩いた。ここは浅草に相当するので、好きな街だ。珍しくユニクロの店が混んでいた。帰路、北京駅前のスーパーで緑茶瓜子を買った。135gで4.9元。そして、甘栗。500gは10元。CROCS(48元)は白しかなかったので、購入を断念した。

夕飯は、18時からホテルの近くの食堂・美国加州牛肉面大王で、牛肉麺にした。20元と高い。20時に王師傅へ電話。20日の夕食の時間の打ち合わせをした。

5. 2011年2月20日(日)：小湯山、瑠璃廠

予定した皆さんは、すべて都合が悪く、結局、1人となった。キープ君では困ります。したがって、小湯山へ行くことにした。北京駅から地下鉄を乗りついで、5号線の天通苑北で下車し、タクシーに乗った。20分、10.9キロで、30元。

到着後、小湯山の集落の写真を撮った。小湯山双興温泉浴池(写真1)、小湯山村浴池(写真2)など。そして、地元の共同浴場である小湯山村浴池で入浴した(写真3)。6元だった。浴場はまず脱衣場があって、その奥に湯船、湯船の右手にシャワールームがあった。湯船は3m四方で、あまり広くない。2人が入浴中で、2人とも、湯船に座って、身体を洗っていた。ルール違反だ。不潔だと思った。一応、源泉かけながしで、消毒されているらしい。一般的にはシャワールームで立ったまま身体を洗ってから浴槽に入るスタイルである。つまり、脱衣場から湯船まで備え付けのサンダルを履いて行き、入浴の直前でサンダルを脱いで、湯船に入るスタイルである。脱衣場のロッカーには鍵がないので、不安だったが、湯船から少しだけ見えたので、安心。リュックを入れても大丈夫なぐらい、大きめのロッカーだった。

入浴後、タクシーで地下鉄の終点である天通苑北駅に向かった。天通苑北駅で路線バスを確認すると、小湯山医院(下車)までバス(643路)があった。今回はこれだ。北京駅から80分(地下鉄+バス)程度(待ち時間は別)で、小湯山に行けると思うので、湯治にはいいかも…。

18時から王師傅と民俗酒楼で夕食。皆さん都合が悪くて、2人で132元だった。彼の作成した印鑑は6個で800元だった。字数からみれば、安いと思う。

6. 2011年2月21日(月)：帰国

10時25分、ホテルをチェックアウト。電話代は1.38元だった。その後、地下鉄、空港快速を乗り継いで、首都空港へは11時20分到着。ANAのカウンターは11時30分チェックイン開始。12時からラウンジで休憩。2時間ほどいた。NH160便は正常に飛んで、18時20分関西空港へ。税関はめずらしく無言だった。19時30分には東佐野の宿舎に着いた。

Ⅲ. GWの北京行き(2011年4月28日～5月2日)

1. 恒例のGW北京旅

2011年4月8日から5月2日まで北京へ出かけた。少しだけ仕事をする予定で訪問した。恒例のGW北京旅である。飛行機はNH(ANA)のマイレージ2万点の利用で、2011年12月に予約を入れた。

2. 2011年4月28日(木)：移動、前門、中国温泉旅游協会、瑠璃廠

NH 159 便は、現地時間 12 時過ぎに、北京首都空港へ着いた。飛行機の隣の席の方 (H 氏) が、初めての北京旅行とのことで、色々付き合いをした。5 月 2 日に西安へ行くとのことで、飛行機の再予約をしようとしてお手伝いをしたが、言葉が通じないため、本当に苦労した。1 時間ほどロスして、やっと解決した。いま持っているチケットで、当日の搭乗が可能らしい。

その後、空港快速 25 元、地下鉄 2 元を乗り継いで、15 時過ぎには、彼のホテルを経由して、北京玉辰飯店にチェックイン。彼のホテルは、私のホテルの近くで、3 星らしい。私の部屋は 823 で、ダブルベッドの部屋だ。

ホテルでの両替は 1 万円が 768.71 円で、2 月の 759.09 円より少しだけ良かった。私は、中国温泉旅游協会での約束があって、15 時 30 分に協会を訪問した。ビルの受付で名刺を示して、担当の田小姐を呼んでもらったが、時間がなくて、お土産だけを差し上げた。29 日・金曜日の 10 時にアポを取り付けた。

16 時に H 氏を迎えに彼のホテルへ行って、その後、一緒に前門へ。彼は金曜日に万里長城へ行くために、発着場所を探すとのこと。私はいつもの楊梅竹斜街の散髪屋に行ったが、珍しく満員。5 月 1 日のメーデーのためオシャレを楽しむ人が多いみたい。おばちゃんが多かった。そこで、散髪を断念して、大柵欄と前門の街をふらついた。

前門の大通りで、若い変な女がやってきた。要するにお金が欲しいとのこと。最初は北京語、次は英語で話しかけてきた。お腹が空いたので、2 元欲しいとのこと。断ると、別の男に声をかけていた。こうしたことは上海で体験したが、北京では初めてだ。

18 時に H 氏と集合して、いつもの民俗酒楼へ。王師傅・H 氏・私の 3 人で夕飯を食べた。トータルで 202 元だった。北京ダックは値上げをして 68 元 + 14 元 (ネギなど) だった。H 氏と私は、王師傅に印鑑の作成をお願いした。H 氏は結局、観光バスの出発地点を探し切れず、長城行きを断念したとか。もったいない…。

20 時に解散して、私はいつもの楊梅竹斜街の店で散髪 & 髪染めをした。100 元。時間は 2 時間で、ホテルへはバスを利用して 22 時 30 分に着いた。

3. 2011年4月29日(金)：中国旅游書店、中国温泉旅游協会、王府井

9 時過ぎから北京国際飯店裏のビルの 5 階にある中国旅游書店へ。主に北京の地図などを買った。1 割引で 390 元を消費した。10 時から中国温泉旅游協会。執務室で話を伺った。秘書長、田小姐の 2 人。彼女は英語が堪能で、助かった。私はダメだが…。雑誌とか本・報告書などを頂いた。書名は秘密です。日本の温泉関係者が欲しがるので…。45 分ほどおじゃました。

11 時 5 分、2010 年 4 月の調査の際に、通訳をして頂いた北京国際飯店の張氏にお礼の電話をして、その結果、チュリップリゾートへ行くことになった。チュリップのことを書いた論文の抜き刷りを持参するためだ。ホテルからタクシーに乗ったが、タクシーは機場 (飛行場) 高速を飛ばして、35 分で着いた。費用は 69 円で、高速代を含めて 100 元渡した。チュリップリゾートの老板 (経営者) とは 5 分ほど面会して、30 分ほど小姐にリゾートを案内してもらった。新しく会議場の建設をしていた。投資意欲が大きいと思った。小姐は内モンゴルの出身で、職歴は 4 年目とか。給料は 2,000 元。

帰りは路線バスに乗った。640路で何と北京駅行きだった。一卡通（交通カード）を使って0.8元と安い。ただし、道路は混んで、75分ほどかかった。これは便利で、時間があれば、この路線バスを使用したい。

15時に遅い昼飯。美国加州牛肉面大王で、牛肉麵セットを食べた。21元。その後、王府井へ。15時40分発、103路に乗車した。これは動物園行きで、王府井を経由するので、本当に便利だ。外交書店で「中日辞典」の大きいやつを探したが、やはり無かった。帰りは17時45分に乗車したが、北京駅まで1時間もかかった。駅前のスーパーでCROCSのサンダルを買った。48元。19時から夕飯。再び美国加州牛肉面大王。牛肉麵18元、ご飯2元、豆腐6元。

4. 2011年4月30日（土）：紅橋市場、瑠璃廠、前門

10時に北京国際飯店の旧知のコンシエルジュリー・張氏を訪ねた。タバコや雑誌などの土産を差し上げて、通訳をお願いした。小湯山温泉の某温泉ホテルへの電話取材だ。途中で、会議中とのことで、老板（経営者）から電話を切られたが、おおよその見当がついた。

11時45分、王師傳がホテルにやってきた。まずは昼飯。永和大王で食べた。2人で33元。北京駅から路線バスの39路で、紅橋市場へ。店員に勧められて、携帯カメラ（探偵用だと思う）70元、SDカード（8G）70元などを買った。ラジオも買った。ステレオタイプで、1台は128元で、最後は3台290元になった。震災絡みで、日本はラジオが品薄だったので、少しだけ買占めをした。

隣のビルの2階のROSEという店でCROCSのサンダルを買った。40元と30元。質で価格が異なるらしい。前から欲しかったCROCSの布製の靴は100元だった。30元のCROCSは王師傳へプレゼントした。

その後、路線バスの34路で、潘家園旧貨市場へ行った。買うものがなくて、その後、タクシーで瑠璃廠へ。タクシー代は25分で25元+2元だった。当方はマッサージ70元で、王師傳は街ブラとなった。17時40分から4人で食事。280元だった。国際飯店の張氏・日本人留学生のHさん・王師傳・私の4人。20時まで話が弾んだ。北京ダックは68元+14元（ネギなど）で82元。4月1日から値上げしたらしい。

5. 2011年5月1日（日）：小湯山、瑠璃廠

10時30分起床。菊水亭で昼飯を食べようとしたら、日本食の食べ放題が68元から88元へ値上げしており、取りやめた。その足で小湯山へ。北京駅から地下鉄を乗りついで、5号線の天通苑北で下車。

今度はバスだ。643路の路線バスに乗車。乗車マナーが悪い。すぐに満員となった。バスは一卡通（交通カード）の使用で0.8元だった。25分で小湯山へ着いた。集落をふらついて、大衆食堂で昼飯を食べた。ラーメンは6元、ご飯2元だった。「菜は？」と聞かれたが、断った。文字通りラーメンライスとなった。

書店でDVDを買った。日本沈没は15元だった。再度45分ほど集落を歩いて、温泉施設を調べた。共同湯として、小湯山双興温泉浴池・小湯山村浴池・小湯山温泉浴池老温泉（写真4）があった。それぞれの入浴料は18元、6元、8元だ。老温泉は初めて発見した。

14時15分から30分、老温泉に入湯した。受付で8元を支払い、いざ浴場へ。番台がいて、北京語でまくしたてられたが、ロッカー代10元をデポジットで支払った。脱衣場は広く

て、ソファが 10 脚ほどあった。部屋の回りにロッカーがあった。次はシャワー室で、奥に浴槽があった。浴槽は回りで数人が寝そべっており、マナーが実に悪い。浴槽まではサンダルで行く訳だが、当方はサンダルがなく、番台のおじさんから、厳しい顔で何かを言われた。出るときに「ナニ人か」と聞かれ、日本人と答えたが、発音が悪く、不明だったらしい。

廊下に出ると、一組の若いカップルがやってきた。個室風呂に入って行った（写真 5）。普通間は 40 元と安い。きっとナニをするに違いない。時代は変わったと思う。

その後、リntaxに乗って、20 分ほど小湯山の集落を回って、やっと集落の構造をつかんだ。10 円で交渉をした。小湯山医院の壁を指差して、「非典」(SARS) と教えてくれた。納得しています。

15 時 30 分、643 路の路線バスに乗車し、40 分で天通苑北に到着。地下鉄を乗り継いで、16 時 53 分に北京駅到着。ホテルで 15 分休憩して、瑠璃廠へ。18 時から 2 時間、夕飯。H 氏・H さん・王師傅・私の 4 人で食べた。総額は 209 元。注文していた私の印鑑は 1,300 元だった。「友達から商売をしてはいけない」。H 氏は息子と娘に実印を作り、2 個で 100 元だった。字数が少ないので安いと思う。王師傅は皆さんの前で「北京で一番安い印鑑」と日本語で申し出ておりました。やれやれ。H さんには印鑑を記念に 1 個プレゼントすると言っていた。それぐらいの北京語は分かります。

結局、H 氏は、西安行きを断念し、明日、帰国するとか。心境の変化だ。北京、西安、上海、福岡のフライト予定だったが、いったいどうしたのかな。西安と上海のホテルはキャンセルしたとか。

6. 2011 年 5 月 2 日 (月) : 帰国

10 時 30 分、ホテルをチェックアウト。北京国際飯店から空港バスに乗ることにした。本が重くて、地下鉄の階段が無理と判断したからだ。空港バスは、以前みたいに、国際飯店発になっており、便利だった。しかし、発車は 30 分ごとだと思う。11 時に発車し、第 2・第 1 ターミナルを経由して、第 3 ターミナルに着いた。所要時間は 50 分もかかった。12 時にチェックイン。荷物は 23.4 キロだった。これは重い。NH 160 便は 14 時 33 分テイクオフ。日本時間 17 時 55 分に関西空港にランディング。

IV. 夏のタイ行き (2011 年 8 月 24 日~28 日)

1. タイの温泉調査

2011 年 8 月 24 日から 28 日までタイへ出かけた。主な目的は、ラチャプリユックカレッジ (RC) の訪問とチェンマイでの温泉調査となる。TG (タイ航空) の航空運賃 (関空-バンコク-チェンマイ間の往復チケット) については、JTB と HIS に見積もりをお願いした。その結果、JTB から希望のチケット手配が出来ると返事をもらい、JTB に決定した。

見積時、JTB は総額 8 万円程度 (オイルサーチャージなどを含む) のチケットを用意したが、出発前になって 12 万 400 円と提示。間際なので仕方なく了解したが、後日、請求書を見て、びっくり。オイルサーチャージなどを含むと、14 万 4,550 円の請求書だった。まったくデタラメで、営業マンに対して出入り禁止を申し渡した。

2. 2011年8月24日（水）：接待の夕食

9時に関西空港に到着。早速、両替をした。1万円が3,400バーツ（B）。つまり1Bは2.95円。ついでにユーロにかえたら、1万円が90ユーロだった。数年前は60ユーロ程度だったので、かなりの儲けだ。

9時45分、タイ航空（TG）のカウンターでチェックイン。どうも混んでいると思ったら、前日が休航で、同時に2便飛ぶようだ。座席は55D。JTBに高い運賃を払った割には座席が後方だ。前方席を確保出来るマイレージの方が断然有利だと思った。

TG 0623便のフライトは順調で、無事バンコクへ着いた。現地時間で15時10分。時差は2時間。お迎えの車は16時20分発。いつものドライバーだった。早速、日本から持参した週刊誌などのお土産を差し上げた。

ホテルはいつものリッチモンドホテル。17時5分頃に着いた。部屋は1252で、中国人の宿泊客が多いと思った。ホテル代は2,500B。シーズンは3,000Bとのこと。ホテルを18時30分に出て、中華レストランへ。RCの学長の接待である。当方はお土産として、学長夫妻に扇子を買った。特に学長には魔よけの扇子を用意した。お腹一杯になって、ホテルへ帰った。21時20分に着いた。

学長の話では、RCの学生数は4,500人、教員200人、事務員50人とのこと。現在、ビルは2棟で、近い将来、さらに2棟を建設し、他に学生寮（含む教員宿舎）を建設するとか。そして、2012年からは英語のツーリズムコースも開設するとのこと。新興大学の勢いを感じた。

3. 2011年8月25日（木）：ラチャプリユックカレッジ、チェンマイ

(1) ラチャプリユックカレッジ

7時50分起床。ホテルでバイキングの朝食。マナーの悪い連中が多い。9時から11時まで、RCの学生に対して、講義などをした。学生数は30人程度。2年前に日本に留学したアムさん・ジウさんも話に加わった。我々日本からの教員は、日本における留學生活の実態について話をした。テーマは「日本の留學生活」と「日本の留學事情」。

講義の途中、政府の関係の査察が入って、我々の講義の様子を見学された。RCの関係者を入れて、総勢20人ほどが来室したのには驚いた。講義後、RC側の温泉調査担当の新しい先生を入れて打ち合わせをした。11時45分から13時まで昼食。学長を入れてメンバーは8人。いつもの中華のレストランで、話は弾んだ。

(2) チェンマイ観光資源調査

午後からはチェンマイの温泉調査である。参加メンバーは、大阪から2人、RCから2人。チェンマイ行きのTG 0114便は15時30分、スワンナプーム国際空港をテイクオフ、1時間ほどで、チェンマイに着いた。お迎えのガイドさんはタイ人女性の通称サユリさんで、日本語が抜群だった。まずは宿泊先のエアポートグリーンナリーホテルにチェックイン。ホテル内の理容店で散髪の値段を聞いたら、1,500B（散髪&髪染）。これは高い。ホテル代は1,500B。これは安い。日本人のロングステイは5,000人とか。これは多い。

サユリさんの提案で、寺院観光へ出かけた。観光資源調査だ。私は2度目のチェンマイだが、30年ぶりなので、記憶はない。スワンドック寺院・プラッシング寺院・ルアンパゴタなどを見学した。19時前から21時まで北タイ料理の夕食を食べた。地元では有名な歌手の方が

いたので、CD を 3 枚買った。3 枚で 300 B。

夕食をとりながら、サユリさんからタイの温泉の話を知った。有力な温泉はタイ全体で 30 カ所程度で、その内訳は、チェンマイ 7・チェンライ 3・ランパン 2・パヤオ 2・カンチャナブリー 2・ポークルン 2・ラノン 3・メーホンソン 2 など。戦時中、日本軍が開発した温泉もあって、カンチャナブリーのヒンダット温泉が有名とのこと。

その後、夜市を 1 時間ほど見学。両替をしたら、1 万円が 4,000 B だった。ということは 1 B=2.5 円で、閑空のレートより断然得だと思った。うーん。

4. 2011 年 8 月 26 日 (金) : サンカンペーン温泉調査、チェンマイ国際空港

(1) 通称サユリさん

朝、早めにフロントに行くとサユリさんがいたので、彼女の個人情報を色々知った。元は政府の役人で、日本留学の経験もある日本通の方で、現在は、旅行会社の代表を務め、主に日本人観光客のお世話をしているとか。タイの温泉についてもかなりの事情通で、そこで、大阪観光大学温泉愛好会が主宰する「温泉カリスマ」制度で、タイ人第 1 号の称号を与えることになった。

8 時 20 分から温泉調査に出かけた。場所はチェンマイ郊外のサンカンペーン温泉で、ここはタイでは温泉集中地区として知られる有名温泉地である。経営者不在もあって、聞き取り調査は十分ではなかったが、結局、4 カ所の温泉施設を訪問した。

①ルーン アルーン ホットスプリング リゾート

②ブリラサイ

③サンカンペーン ホットスプリング

④ONSEN

ところで、タイには 200 以上の温泉地が成立していると思われる。その分布は、タイの北部 (チェンマイ周辺)・バンコク周辺・タイの南部 (マレー半島) に集中している。

まずは ONSEN。ここはチェンマイから東へ 40 キロ地点に位置する。看板には日本語の「温泉」という屋号も掲げており、本格的だと思った。フロントに行くと、経営者は病気で不在と言われ、施設内の見学だけを行った。

(2) ルーン アルーン ホットスプリング リゾート

9 時 20 分に辞して、今度はルーン アルーンへ。10 分で着いた。ここは 1987 年開業の施設で、サンカンペーン温泉では老舗のリゾートタイプの施設であった。敷地面積は広大で、100 RAI (16 ha)。やはり経営者は不在で、フロントのスタッフに聞き取り調査を実施した。経営者は、バンコクに住む潮州人 (中国系) で、薬品会社を営んでいるとのこと。2008 年から温泉を利用した香水などを発売し、多角化に取り組んでいる。

温泉開発は 1976 年に行い、深度は 40 m、泉温は 105℃ と高い (写真 6)。湧出量は 240 ℓ /m で、泉質は硫黄系。掘削自噴をしており、自噴の様子を間近で見学が出来る。スタッフは 50 人、観光客はタイ・イギリス・韓国・日本が多い。

宿泊施設はコテージ (4 室付帯) 4 棟、コテージ (2 室付帯) 10 棟、コテージ (5 人収容) 2 棟で、宿泊料金は平日 1,200 B、週末 1,500 B となる。

温泉施設は、屋外と屋内のプールを始め、個室浴場があった。個室浴場はバスタブタイプで、男女別となる。80 B と 120 B の個室があった。利用者はオフで、30 人程度/日、オンで

70-100人程度/日。

(3) ブリラサイ

次は11時にブリラサイを訪問した。ここはサユリさんも知らない新しい施設で、2010年1月1日に開業したばかり。やはり経営者不在で、マネージャーに聞き取り調査を実施し、電話で2代目女将に聞き取りを行った。屋号の意味は「素晴らしい町」。敷地面積は38 RAI (6.1 ha) で、敷地内にはフロント・コテージ (大10棟・小10棟)・マッサージルーム (建設中)・温泉施設 (個室浴場4室)、屋外プール、水田などがあつた (写真7)。初代経営者は、ピチット県出身で、潮州人 (中国系)。ルーン アルーンの開発の際、建築の手伝いを行い、その際、ここの土地を購入したとのこと。

土地の購入費は1,000万B、建物の設備投資額は1,000万B。建築の手伝いをした時、バスタブはセメントの方が維持しやすいこと (色が付かない) を学び、自分の施設の浴槽はセメント造りとした。温泉掘削は2009年、泉温は70℃、深度は60m、泉源は3カ所に及ぶ。飲泉OKだった。

2代目 (31歳) は、バンコクで建設業を営み、温泉施設の隣地ではコンドミニアムの開発を計画している。温泉施設の経営は、2代目の女将と女性のマネージャー (30歳) が担当している。現在、初代はフルーツ農園を営んでいる。

年商は1,000万Bで、伸び率は20%に及ぶ。オンは10月~5月、オフは6月~9月、冬季と夏季がオンで、雨季はオフとなる。利用客は米国・日本・韓国・中国・タイ (別の県の人)。スタッフは12~20人。近くに別の土地を持っており、3RAI (0.48ha) を1,800万Bで買わないかと言われた。

ここで昼飯を食べて、温泉入湯もした。同行者は個室浴場にしたが、当方は屋外プールに裸で入った。熱めのプールと温めのプールがあつたが、温めを利用した。個室浴場は、やはりセメント造りだった。

隣の土地で、ゴールドンヒル ホットスプリング リゾートが建設中だった。韓国の資本で、ハングル文字があつた。一部完成し、政府関係者の施設らしい。

(4) サンカンペーン ホットスプリング

今度はサンカンペーン ホットスプリングへ。13時25分に着いた。ここは公共の施設で、敷地面積は75RAI (12ha) と広い。最初は敷地内を見学した。その後、ベテランのスタッフに聞き取り調査を実施した。経営主体は、サンカンペーン郡村落農業共同体で、8カ所の村が経営に参画している。草地を観光開発に利用したとのこと。以前、地熱発電を計画したが、資金難で断念したらしい。設備投資額は200万Bで、内訳は地方政府100万B・村当局100万Bで、投資額はそれぞれ30万Bの返済を残すだけとのこと。

温泉開発は1984年で、泉質は硫黄系で、フッ素・臭素も含まれている。泉温は105℃、深さは100m、源泉は4カ所で、掘削とはいえ、自噴の現象が見学できる。温泉卵の製造も出来る (写真8)。

利用客はタイ80%・外国20%で、タイは学生の利用が目立つ。外国は日本やアラブなど。インバウンドというよりは、タイに生活する人々の利用が多い。年商は2,500万Bで、オンは1月・12月、オフは8月・9月。年間の利用客は40万人に及ぶ。スタッフは50人。敷地内に村人が土産店などを営んでいるが、ショップのレンタル料は1,500B/月とのこと。

コテージは17棟、50人収容となる。平均的はコテージは1,200B/1棟、VIPは2,500B/1

棟となる。リゾートの入場料は、大人 20 B、子供 10 B で、外国人は概ね 2 倍となる。プールの利用は大人 150 B、子供 30 B、温泉施設（個室浴場）は 50 B、シャワー 20 B、貸切温泉施設は 200 B となる。

(5) ONSEN

14 時過ぎに慌ただしく出発し、今度は ONSEN へ向かった。2 代目の女将が通院後聞き取り調査に答えてくれた。女将（26 歳）は若くて美人だった。名前は日本語では「冬子」を意味するらしい。

先代の女将（53 歳。地元出身）が 7 月に食中毒で急死したので、経営の詳細はわからないらしい。自動車を運転中に苦しくなって、病院へ自分で行って逝去とのこと。彼女はオックスフォード大学出の才媛で、日本へ何度も旅行しており、日本が好きになって、ONSEN の開業となった。土地は元森林で、投資額は 5,000 万 B。敷地面積は 13 RAI（2.1 ha）。

温泉掘削は 2005 年で、源泉は 3 本保有。施設の開業は 2009 年 2 月。建物の設備投資額は 6,000 万 B で、日本・アラブ・バリ島をイメージした内装に拘っている。

利用客は日本 40%・タイ 30% で大半を占め、その他では韓国・米国・イギリス・ロシアが多い。客室はホテルタイプで、10 室。40 人の収容が可能だ。会議室・レストラン・売店・屋外プール・個室浴場（男女別それぞれ 10 室）・マッサージルームなどがある（写真 9）。スタッフは 8 人～15 人。現在、初代の夫は農場（ゴム）、2 代目の夫は農場（タバコ）を営する。義理の弟は日本に留学をしており、日本通で、今回の聞き取り調査の際に同席した。

年商は 100 万 B～200 万 B で、利用客は 1 万人程度/1 年。オンは 11 月～2 月、オフは 4 月～6 月で、夏と雨季が弱い。温泉はポンプの故障で入れず、残念。

(6) チェンマイ国際空港

ONSEN での聞き取り調査を 15 時に終了して、チェンマイの空港へ急いだ。空港で、神奈川県の高校勤務の頃の知人（教員）と会った。彼は仲間と旅行に来ていた。現在、仕事をしながら、大学院へ進学しており、今後、チェンマイで修論の調査をし、将来は住みたいとのこと。確か 20 年ぶりだと思う。30 年ほど前に地理教育研究会で南米へ行った話で盛り上がった。当時は 120 万円の旅費だった。

TG 0115 便は 17 時 45 分テイクオフ。バンコクのスワンナプーム国際空港へは 18 時 45 分ランディング。道路が混んで、リッチモンドホテルまで 1 時間 10 分要した。遅くなったので、夕飯はホテルとなった。21 時から 1 時間ほど。部屋は 1456。部屋代は 2,500 B。

5. 2011 年 8 月 27 日（土）：バンコク市内・帰国

(1) バンコク市内

9 時から 11 時まで RC で温泉調査のまとめをした。その後、ワゴン車でバンコク市内の HIS まで送ってもらって、12 時 30 分から寺院観光に参加した。日本で支払ったので、3,200 円。現地だと 1,000 B。JTB は 900 B らしい。ツアーの参加者は 9 人。我々 2 人以外は、家族連れ 6 人、日本からの会社員 1 人。ワットアルン（暁の寺）・ワットポー・エメラルド寺院・王宮のコースだった。土産品店や免税店にも寄った。

親切なガイドで、免税店から鉄道駅まで徒歩で案内をしてくれた。10 分程度。パヤタイ駅が空港行きの始発駅で、急行は 50 B、普通は 45 B で、普通を利用した。時間は 30 分程度で着いた。これは近いと思った。空港では、寿司 450 B+ジュース 85 B、さらにスターバック

スでカフェラテを飲んで反省会をした。20時にチェックイン。タイ全土のマップを買った。248 B。TG 0622 は 23 時 56 分テイクオフ。4 時間 50 分のフライトだ。

(2) 帰国

日本時間 5 時頃、機中で朝食。8 月 28 日（日）、7 時 15 分関空へランディング。8 時に日根野駅に着いた。

今回の旅では、初めて土産品を買わなかった。CD 3 枚（300 B）・タイ全土のマップ 1 枚（248 B）だけだ。その他では、RC のドライバーにチップ 100 B を差し上げた。食事代の支払いは空港で食べた分だけである。ハードスケジュールで時間がなかったことも確かだが、チュンマイの夜市の物価があまりにも高かったので、購買意欲が消えただけかもしれない。

V. 残暑の北京行き（2011 年 9 月 2 日～6 日）

1. 温泉入浴の旅

2011 年 9 月 2 日から 6 日まで北京へ出かけた。今回は小湯山での共同湯探し、北京市内での温泉入浴を意図した。今回の旅の収穫は「一卡充」である。携帯電話の通話用の補充カードは一卡充といい、ホテルの売店でも販売されていた。こうなると電話は楽になった。

飛行機は NH（ANA）のマイレージ 2 万点を利用した。

2. 2011 年 9 月 2 日（金）：中国温泉旅游協会、楊梅竹斜街、瑠璃廠

台風の関係で、出発を心配したが、飛行機は順調に出発した。NH 159 便はほぼ満席で、現地時間 12 時過ぎに北京首都空港へ着いた。空港快速は 25 円で、東直門で地下鉄に乗りついで北京駅下車。14 時過ぎには宝辰飯店にチェックイン。ホテルでの両替は 3 万円は 2,403 元とレートは高い。過去最高かもしれない。

中国専用の携帯は、一卡充の不足で使用不能。ホテルの部屋の電話を使って、書道家の王師傳に來北を告げた。そして、中国温泉旅游協会の田小姐にも電話。2 日前にメールを送信したが、通じていないみたいだった。

15 時から 30 分だけ中国温泉旅游協会へ行行って、挨拶をした。秘書長ともお会いした。「中国温泉旅游」という月刊誌の 9 月号を頂いた。

その後、地下鉄で前門へ。『観光地理学－観光地域の形成と課題（改訂版）－』に掲載する写真撮影を行った。続いて、徒歩で瑠璃廠へ。いつもの楊梅竹斜街の店は老板が不在で、マッサージはダメと言われた。そこで仕方なく、近所のマッサージ屋に行くことにした。16 時 30 分から 18 時までの 90 分は 180 円で、チップを 20 元差し上げた。背中はおイルマッサージにしてもらった。本来のマッサージは 100 元だが、オイルだと 80 元追加となった。ここはマッサージの専門店だった。

18 時からいつもの民俗酒楼で夕食。北京ダックが 68 元 + 14 元（ネギなど）となった。以前は 38 元 + 10 元（ネギなど）だったので、この 9 年間で倍になった感じだ。2 人で 144 元消費した。

19 時 30 分からいつもの薬を買いに前門へ。140 元を消費した。20 時 50 分発の路線バス 126 路に乗車。北京駅に 21 時 10 分に着いた。ホテルの部屋に帰ったら、果物があった。このホテルを利用して 10 年になると思うが、初めてのサービスである。

3. 2011年9月3日（土）：中国温泉旅游協会、紅橋市場

9時30分起床。10時から北京駅近くで買い物をした。CROCSは48元。これを履いて北京を歩くことにした。新古の本を3冊買った。45元。さらに「易経」は3元。電池で動く人形は48元で、2体は90元。某文化祭で販売する予定だ。

12時から2時間ほど。中国温泉旅游協会的小姐と食事をした。彼女がおすすめの四川料理だ。彼女のおごりとなったので、恐縮して飛行機内で買ったティファニーのネックレスを差し上げた。そして「中国温泉旅游」のバックナンバーをお願いした。5日にホテルへ届けるとのこと。

彼女の名前は田さんで、25歳。河北省の出身で、現在は兄夫婦と同居中。武漢大学の修士課程に在学しながら、現在の職務を担当し、給料は3,000元。ボーナスは不固定らしい。兄はデザイナー、兄嫁は経理の仕事とのこと。

彼女から色々と質問を頂いた。日本の温泉水は綺麗か。中国の温泉は清潔ではない。なぜ日本人は温泉が好きなのか。日本と中国との温泉の比較をしたいなど。日中温泉の比較は、日本の温泉体験がないので、無理ではと伝えたら、書物で勉強しているから大丈夫と答えた。日本での講座とか雑誌執筆などを希望されたが、これは難しいかな。うーん。

その他、日本における夏の温泉の暑さ対策などを聞かれた。日本の場合、夏は涼しい高原の温泉へ行くと答えたが、理解不足だったみたい。私は私で中国の温泉機関誌に執筆の約束をしたが、まだ約束は実行にうつされていない。中国語に翻訳したものが欲しいとのこと。テーマは「日本人の温泉が好きな理由」「夏の日本の温泉」とか…。

14時過ぎからいつもの紅橋市場へ。CROCSのサンダルを買いに行ったら、工事中で、店が消えていた。移り変わりが早い。そこで、携帯用の100元の一卡充を買った。現金なもので、携帯が通じることになった。16時から楊梅竹斜街でマッサージ。200元消費した。18時から王師傅と民俗酒楼で夕飯。スッポンは198元で、全部で298元消費した。20時にホテルへ帰ると、フロント付近に日本の高校生がいた。修旅らしい。スーパーの買い物袋を提げていた。

4. 2011年9月4日（日）：北京温泉会館、新携帯購入

(1) 北京温泉会館

10時から王師傅と朝陽区の北京温泉会館へ出かけた。北京駅から地下鉄を利用して、ホテルからドアツードアで60分程度。料金は158元で、これで入湯+昼食だった。温泉を利用したサウナという感じで、浴槽は38度、42度、45度にわかれ、露天風呂は39度だった（写真10）。男女別の裸入湯である。

昼飯はバイキングで、最後の方は料理がなくなった。客層は家族連れが多かった。男女同席の休憩室もあって、日本のサウナを思い出した。

(2) 新携帯電話購入

15時40分から携帯を買いに出かけた。通話は国際飯店の張氏をお願いした。彼の話は本当に面白い。地下鉄1号線の公主坟駅付近で、安い携帯を売っているとか。結局、399元の中国製の携帯を買った。これで一安心。帰路、古い携帯を路上で売りつけた。150元で購入したノキアは10元だった。地下通路でCROCSのサンダルを買った。今度は同じものが25元。値段はよくわからない。夕飯は菊水亭の食べ放題にした。1人は88元。20時まで話をした。マ

ンションの話、家庭生活の話などを伺った。

張氏は瑠璃廠の近くで2005年にマンションを購入。総額は350万元。借金は2/3で、現在、毎月4,600元の支払いで、期間は15年間となる。広さは98 m²、ベッドルームが2室。現在の資産価値は480万元とか。

彼の月給は2,100元、銀行勤務の奥さんは3,500元。これではマンションの支払いが出来ないので、毎月、彼の母親から500元、妻の父親から1,000元の補助がある。これで月額7,100元となり、何とか生活が出来るという。彼の母は77歳で、年金生活をしており、年金は3万/年。

子供は1歳。保育園は1年間で9,000元を先払いし、さらに毎月800元～1,500元の手入れがあるとか。小学校にあがると、3万元～5万元/年の先払い、毎月1,200元～1,500元の手入れ、さらに中学校では、3万元～5万元/年となるとか。大学へ進学する場合、テストの成績が悪いと、担当の教員に「1点」当たり、5,000元～6,000元支払うとのこと。

そこで、娘は中学ぐらいから日本へ進学させたいと夢を語った。ミルクは1,000元/月で、日本製は高いので、ドイツ製やシンガポール製を使用しているとのこと。将来は、仕事を変える予定だ。バスの運転手は4,000元/月となるらしい。しかし、35歳を超えると、再就職は厳しいとか。日本に留学し、英語が出来るにもかかわらず、やはり人生は厳しいと実感した。ところで、ボーナス制度も存在し、彼の妻の銀行の場合は、入社1年目は3万元/年、10年目は5万元/年、15年目は8万元/年とか。なるへそ。勉強になります。次回のおみやげは辛口の日本酒が欲しいとのこと。はい、喜んで持参します。

彼は仲間と一緒にレアアースの貿易を考えており、レアアースの日本語を聞かれた。韓国を経由して日本に輸出する計画らしい。

5. 2011年9月5日(月)：中国旅游書店、小湯山

9時20分から中国旅游書店へ。本を3冊買った。165元が150元になった。ありがたい。11時、天通苑北駅集合で、王師傅と一緒に小湯山へ。温泉浴である。643路のバスに乗車、20分で小湯山に着いた。

(1) 小湯山鎮大柳樹村温泉浴池

早速、新しい温泉施設を探し出した。小湯山鎮大柳樹村温泉浴池(写真11)(写真12)である。5元と安い。建物は2000年6月建築と壁に書いてあった。王師傅は湯船が汚いといって、入らなかった。2人の方が入浴中で、やはり湯船に腰掛けて、身体を洗っていた。私は平気で、その場にいたサンスケ氏に身体を洗ってもらった。10分は10元。久しぶりである。サンダルは備え付けがなく、私は履いていたCROCSで代用させた。何でもありだと思う。

その後、20分ほど歩いて、小湯山医院の前の商店街に行った。食堂で昼飯を食べた。2人で39元。王師傅が支払った。これで彼のおごりは2回目だ。1回目はSARS(非典)の時。街の写真を撮り、龍脉リゾートへ。リntaxは4元と安い。龍脉リゾートの入浴料金は最低でも100元なので、彼の提案で次回にした。

(2) 小湯山双興温泉浴池

再度、徒歩で小湯山双興温泉浴池へ行った。店頭で北京ダックを売るおばちゃんの情報では、入浴料金は16元が12元に下がったというので、行くことにした。ちなみに蒸したダックは1羽20元だった。

入浴料金は鍵代 10 元を含めて 22 元。鍵代を預かるシステムは以前の小湯山村浴池時代と変わらない。鍵代 10 元は入浴後、受付で返還されることになる。近くの老温泉も同じだった。

右隣の小湯山双興温泉浴池は、小湯山村浴池時代と建物は同じだが、大浴場はすべて変わっていた。しかし、傷みや汚れがひどく、以前の方が清潔だと感じた。新しく出来たサウナは故障中だし、洗い場は汚いし、これでは 16 元はとれないと思った。サンダルは脱衣場で無造作に置かれていた。2 階が休憩室で、ついでにマッサージをした。45 分で 50 元だった。休憩室では、戦争映画が放映されていた。日中の戦争映画である。映画では日本の軍人が必ず「馬鹿野郎」を発するので、中国では、馬鹿野郎を使わない方が良い。私は商人と値引き交渉の際、相手が不正した場合、馬鹿野郎を用いたが、強烈な言葉らしく、最近は使わないことにしている。あとは「君（きみ）」。これも使わない方が良い。軍人が高圧的な態度で発する言葉で、一般の中国人はおじけづくと思う。

バス、地下鉄を乗継ぐ同じコースで北京へ帰り、18 時 20 分から民俗酒楼で夕食。2 人で 85 元だった。王師傅に頼んだ印鑑は 5 本で 400 元。そのうち、2 本は彼のミスで作り直しとなったが、その分のお金はやはり請求された。ビジネスはビジネスだと思った。20 時 30 分に宝辰飯店へ帰り、旧知の浙江省の先生へ「浙江省の温泉調査」の件で、携帯から電話して、今後の日程の打ち合わせをした。

6. 2011 年 9 月 6 日（火）：中国温泉旅游協会、帰国

9 時起床。日本から持参したカップ麺を朝飯にした。そしてホテルからのプレゼントのリンゴとナシを食べた。10 時 20 分、ホテルをチェックアウト。電話代は 1 元。フロントで、「預かり物はないか」と質問をしたところ、「無い」とのことで、中国温泉旅游協会の田小姐へ電話。話が通じないので、当方が行くことになった。受付で面会をすると、「月曜日にホテルへ届けた」とのこと。まあ、話が合わないので、再度、温泉関係の雑誌のバックナンバーを頂いた。

11 時 10 分発の空港バスに乗車。1 時間弱で空港へ着いた。NH 160 便は 14 時 41 分テイクオフ。日本時間 18 時過ぎに関西空港へランディング。

VI. おわりに

北京では小湯山の共同浴場、そして、北京市内の温泉施設で温泉入浴を楽しみ、タイでは温泉調査を実施した。タイでは、通訳の通称サユリさんに大変なお世話を頂いた。サユリさんの意味は、女優の吉永小百合に似ているとのことで、日本人の観光客から頂いた通称とか…。彼女は日本留学の経験もあって、とても優秀で、今後のチェンマイでの温泉調査では、専属のガイド兼通訳をお願いする予定だ。

付記：本報告は、今日新聞（別府市の夕刊紙）の 2012 年正月号に掲載した内容に加筆・修正したものである。



写真1 小湯山双興温泉浴池の外観



写真2 小湯山村浴池の外観



写真3 小湯山村浴池の内部



写真4 小湯山温泉浴池老温泉の外観



写真5 老温泉の個室浴場



写真6 ルーン アルーン ホットスプリング リゾートの源泉



写真7 ブリラサイのコテージ



写真8 サンカンペーン ホットスプリングの源泉



写真9 ONSENの個室浴場



写真10 北京温泉会館の露天風呂



写真11 小湯山鎮大柳樹村温泉浴池の外観



写真12 小湯山鎮大柳樹村温泉浴池の脱衣場